

南芦屋浜の自然【16】

第六期芦屋市環境づくり推進会議活動の記録

総合公園ビオトープの生きもの

「ビオトープ」の役割、再確認

「ビオトープ」の面積は、約二百五十平方メートル、満水時の水深は約五十〜六十センチ程度、底は軟泥、ヘドロ状で二十センチ近くぬめりこむ状態です。水中より生える植物の根近くの茎が、この池に住む生き物の適当な隠れ場所を提供し、魚やエビ類の生存にとって好適な環境を作り上げていると考えられます。

【魚類(さかなの仲間)】

①カワバタモロコ コイ科

大きさは、成魚で五センチほどで、雌は雄に比べてやや大型です。口ひげはなく、口はやや上向きについています。体側に薄い黒線があります。繁殖期の雄は体が金色になり、黒線もはっきり見えます。水生の小動物や藻類を餌とし、五〜七月ごろ繁殖します。

日本の固有種で静岡県より西の本州や四国九州の一部地域に分布し、水流のほとんどない水生植物が繁茂する場所に住んでいます。芦屋でもかつては生息していましたが、現在では絶滅した魚です。このビオトープには、大量に生息しており、タモ網ですくうといっぱい入る状態でした。おそらく、ビオトープの創設時に放されたものがずっと生き残り、増えてきたと考えられます。今となっては貴重な存在なので、何とか残していきたいものです。



カワバタモロコ

②メダカ メダカ科メダカ属



メダカ

かつては「メダカの学校は川の中」と小学校唱歌に歌われたメダカも、今では「絶滅危惧種」に指定されるほど少なくなっています。原因といわれています。

また、田にまかれた農薬も大きく影響しているようです。芦屋でも宮川の側流にわずかに残っているのが確認されています。このビオトープには、それこそ「うじゃうじゃ泳いでいる」と形容してよいほど大量に生息していました。これも創設時に放されたものが大繁殖したのでしょう。

メダカは体長四センチ位の小形の魚で、北海道をのぞく日本各地の平地の池や、流れのゆるやかな川や田の側溝などに普通に見られたのですが、近年はほとんど見られなくなりました。野生種は、この二種だけですが、

【魚以外のビオトープの生きもの】

①スジエビ

甲殻類エビ目テナガエビ科 芦屋川でも多く見られる川エビの仲間、体長五〜六センチ、透明な体に細い黒い筋が入っているのがこの名があります。水中では、触覚の一部が白く光ります。澄んだ川にすみ、池沼にもすみませんが、汚れた水は好まないのです。このビオトープにこんなにたくさんすんでいたのは驚きでした。日常的には、このビオトープの水はかなりきれいなのかも知れませんが、ともかくここに大量といえるほどのこのエビが生息していた事実は、ここにいつこのスジエビが放されたのかは分かりませんが、このビオトープがスジエビにとって、とても好適な環境であったことの証明です。



スジエビ

②アメリカザリガニ

甲殻類アメリカザリガニ科 体長十センチほど。このビオトープで唯一の外來種で一九二七年(昭和二年)に、アメリカから食用ガエルの餌として持ち込まれた

③ギンヤンマ幼虫(やこ)

昆虫類トンボ目ヤンマ科 すくい上げた泥の中にやや大形の「やこ」が数匹入りました。ヤンマの幼虫のやこのように、あとで調べてみるとギンヤンマの幼虫(やこ)と判明しました。

このヤンマもかつては芦屋のどこにでもみられたヤンマでしたが一九八〇年代(昭和五十五年頃)から急速に姿が見られなくなりました。このヤンマが、このビオトープで生きながらえていることも驚きでした。トンボ、ヤンマの「やこ」は面白い生態をもっていて、水草の間や泥の中に潜ってじっとして、

この他に放流されたと思われる大きなニシキゴイ(コイ科)・赤と白のまだらのもの・体長約六十センチほどと巨大なリュウキン(コイ科)・金魚の仲間の品種・体長四十センチほどが各一尾ずつ捕まっ

※このページでは、平成二十四年に、第六期芦屋市環境づくり推進会議が、活動の記録として発行した「南芦屋浜の自然」を広報国際交流課が再編集して紹介しています。

したが、強い繁殖力で北海道を除く日本各地に広がりました。成体は全体が赤褐色ですが、体長六センチくらいまでは淡褐色です。雌は腹部に卵を抱え、それがかえって体長が八ミリになるまで保護します。この池にはたくさん生息し、アシやコガマの根付近に背を出している姿が多く見られましたので、手づかみでも捕まえました。捕まえた総数は約四十尾ほどでした。もちろん、まだ多くのものが池の中に残っています。捕まえられたものは、収集した子どもたちに分け与えて、持ち帰ってもらいました。



アメリカザリガニ

獲物を待ち構え、獲物が近づくと、へらのようになつた折りたたみ式の下あごで素早く捕らえます。餌はメダカや魚の稚魚、オタマジャクシ、アカムシ、イトミミズなどで、餌が少ないと、やこ同士共食いをしてしまいます。また、呼吸は腸にあるえらで呼吸します。このため口から取り入れた水をお尻から勢いよく噴射して泳ぐことができます。ビオトープの周辺には、シオカラトンボ、アカネの仲間(あかとんぼ)も飛んでいましたのでおそろしくこの池で発生していると思われる「やこ」は見つけられませんでした。

以上が今回の調査で見つかったこのビオトープの生き物たちです。池内の微生物等については、今回調査は行いませんでしたが池の自然状態から考えて、ミジンコなどの動物性プランクトンや緑藻などの植物性プランクトンの生息も推測されます。このような微小生物が、それを餌とするエビやメダカなどの小魚を多く支えていると考えられるからで



ギンヤンマ幼虫(やこ)

KOBELCO ご入居者の「安心」「安全」「快適」な暮らしを 充実の体制でサポートします。

エレガノ摩耶 HOME見学会開催

エレガノ摩耶 ELEGAN MAYA 介護付有料老人ホーム

2/25(火) 11:00~ 参加費:おひとり1,000円/昼食付 JR瀬駅、阪神岩屋駅まで車で送迎あり

お申込み・お問い合わせはフリーコールまで **0120-01-4165** (受付時間) 9:00~17:00

神戸製鋼グループ(神戸製鋼所85%出資) 〒657-0855 神戸市灘区摩耶海岸通1丁目3番10号 TEL:078-802-6582 FAX:078-802-6503 ホームページ <http://www.s-carelife.co.jp>

生涯現役！地域社会のために あなたの力を生かしませんか？

シルバー人材センターは、「自主・自立、共働・共助」を理念として芦屋の街で、就業することを通じて、自らの生きがいの充実や社会参加する高齢者の自主的な団体です。

現在、約1000人の会員が在籍し、活躍しています。

・・・家事支援のご要望が増えています・・・

高齢者宅・子育て家庭等へ出向き、家事のお手伝い(掃除、室内整理、食事の支度等)をして下さる方、是非ともご入会ください。

まずは、入会説明会にお越しください。(毎月第2火曜日13:30~)

★★説明会には前日までにお申し込みが必要です★★

公益社団法人芦屋市シルバー人材センター「はつらつ館」芦屋市宮塚町2-2 TEL32-1414 FAX31-9223 <http://www.sjc.ne.jp/ashiya>

●「広報あしや」バックナンバーは、市ホームページ『広報あしやON LINE』でご覧いただけます。